



SUZUKA
NATIONAL
HOSPITAL

鈴鹿の風

2011.9

第13号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



実りの秋です。カボチャです !!!

(オーストリア・メルクにて by Konagaya)

Contents

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 ■ ごあいさつ | 明治の難病と病弱者教育、そしてこれから |
| 2 ■ トピックス① | 薬局とは？ |
| 医局短信 | 内科紹介 |
| 3 ■ 看護だより | 神経・筋難病医療福祉従事者研修を開催して |
| 平成オタクコラム | プロ野球編6 |
| 4 ■ トピックス② | 第1回鈴鹿病院夏季セミナー開催 |
| 5 ■ 療育通信 | 筋ジストロフィー病棟夏祭り |
| 6 ■ 地域医療連携室だより | 地域医療連携室との係わり |
| News | 東日本大震災に伴う支援で表彰！ |
| 7 ■ 外来診察担当表／交通案内／編集後記 | |

明治の難病と病弱者教育、そしてこれから 病院長 小長谷 正明

しばらく前の国民的な人気漫画『サザエさん』は、日常生活の中のよなしごとをほのぼのと描いていました。中でも、神経内科医として印象的なのは、波平さんの膝をハンマーで叩いているドクターの頭を、「おじいちゃんの仇」とタラちゃんが金づちで殴りつけている絵です。基本的な診察主義である膝蓋腱反射で、私が子どもの頃には「脚気の検査」と呼ばれていました。脚気では末梢神経が障害されるために腱反射が消失するので、こう呼ばれるようになったのです。

脚気は、感覚や運動が麻痺し、心臓も侵されて死ぬこともある国民病でした。今でこそ、米ぬかに含まれているビタミンB1が欠乏して発症することが分かっていますが、かつては、原因不明で治療法もない難病でした。その昔、江戸に多かったのが「江戸病い」とも言われましたし、14代将軍の徳川家茂や御台所の和の宮などもこの病気で若死にしていますし、地方から出てきて食生活が変わった人もよくなりました。都会の上流階級は白米ばかり食べていたからです。

文明開化の御維新直後、若き日の明治天皇も罹りました。臣下の献策を取り上げ、東京神田に脚気病院をつくり、舶来の西洋医学で治療する病棟と、伝統的な和漢医学で治療する病棟とに分けて、治療成績を競い合わせました。結果は、圧倒的に西洋医学の負けでした。栄養性疾患には伝統的な養生法がよかったのです。が、残念ながら、東洋医学の医師たちは治療の詳細を公表しなかったため、逆に信用を失ってしまいました。

でも、脚気は東京だけの病気ではなく、全国的にみられ、三重県も例外ではありませんでした。ここ北勢地区は、脚気で下肢が麻痺し、体が弱った児童たちの教育や治療での歴史的な土地であります。明治22年(1889年)、津にあった三重尋常師範学校(現三重大学教育学部)では、全生徒116人中70余人(60%)が脚気に罹ってしまい、菰野の山に転地して教育を実施しました。30数日経過した時点での評価では種々の改善があらわれ、年末にはほとんどが回復したといえます。転地療養教育は、単にきれいな空気を吸ったからというよりは、玄米や麦飯の田舎の粗食が、脚気によかったのでしょう。

これが、わが国最初の病弱者教育の記録といわれています。現在の障害者教育、筋ジストロフィーのような肢体不自由児や発達障害、重症心身障害児などの特別支援学校とは、ニュアンスがだいぶ異なっています。が、その時代の難病に罹ってしまった生徒にきちんと教育しながら療養させ、直してしまっただけでは、偉業と言わざるをえません。

この時代は、脚気は細菌性の病気だ、いや、食生活で直るのだという論争が続いており、国民的難病のままでした。えらい医者同士のメンツ争いで、兵隊の食生活が改善されず、日露戦争においては脚気による戦病死は万人単位だったとも言います。明治43年(1910年)、やっと米ぬかからビタミンB1(オリザニン)が鈴木梅太郎博士によって抽出され、脚気は難病ではなくなってゆきました。

この病院、鈴鹿病院は、医療を必要とする障害者の治療を目的としています。原因や治療法が確定せず、患者さんも家族も社会的困難差に陥っている、いわゆる「難病」の方々ばかりです。もちろん、明治時代やそれ以前のように、難病はお祓いで治す時代ではないし、「難病」の定義が出来た40年前のように、医者がそろって首をひねっているばかりでもありません。代謝障害にしろ、神経伝達物質にしろ、遺伝子異常にしろ、少しずつの積み重ねで、病気の本体が分かり、治療の目が出てきています。かつては重症心身障害を引き起こした代謝障害の中には、予防的な食事で防げるものも出てきており、また、パーキンソン病を中心に治療が可能になった脳神経の病気も増えています。筋ジストロフィーの遺伝子治療もいよいよ視界の中に入ってきました。

かつての脚気のように、今の時点の「難病」も、やがて治る病気になるかもしれない、ひょっとしたら予防できるものになるかもしれない。10年後だろうか、30年後だろうか、100年は懸かってほしくない。そう思いながら、難病と病院の将来を考えています。

トピックス①

薬局とは？

薬剤師 平野 貴行

院外処方せんを発行する病院や診療所が増えてきたことにより、薬局というと調剤薬局やドラッグストアを連想される方が多いかもしれません。病院の薬局では病院に通院中や入院中の患者さんに院内で発行された処方箋で薬を作っています。もちろん病院の薬局では、一般用医薬品・化粧品・その他雑貨等の販売もしていません。

薬局の大事な仕事に薬の情報提供があります。当院では、新たに処方されたお薬の効果や副作用、気をつけていただきたいことなどをお伝えしています。外来の患者さんには月に一度、又は処方が変わった時に薬剤情報提供書をお渡ししています。同時に医師に薬の適正用量や副作用などのアドバイスも行っています。

この他に、最近よく耳にする「チーム医療」の点でも参加しています。例えば栄養サポートチームでは効果的な栄養剤療法や医療安全チームでは安心安全な薬物療法が行われるようにアドバイスを行っています。

当院の薬局には、3名の薬剤師がいます。薬を飲んでいて、わからないことや気になること等ありましたら、薬局窓口にてお尋ねください。

また、当院では院外処方箋の発行も行っております。お気軽にご相談ください。



医局短信

内科紹介

内科医長 棚橋 保

当院は筋ジストロフィー・神経難病・重症心身障害患者の診療を目的とした専門病院です。その中で『内科』医の役割を説明いたします。（ここで言う内科とは神経内科以外の内科、すなわち、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科を指します。）

当院内科医の主な仕事は

- ①重症心身障害者の診療
- ②重症心身障害者をはじめ、筋ジストロフィー・神経難病患者に併発した心疾患、呼吸器疾患および消化器疾患への対応
- ③一般内科の外来診療

です。

特に当院の内科は循環器疾患に力を入れておりますが、その理由としては、筋ジストロフィー患者には高率に心不全などの循環器疾患が併発するため、その治療や管理を高いレベルで行っていきたいと考えているからです。現に神経内科医との協力のもとで心不全合併患者に対する良好な治療成績を上げております。もちろん外来では一般の病院と同様、高血圧や高脂血症はもとより、風邪や消化器系疾患の診療も行っております。分かりやすく安全な診療を心がけておりますのでお気軽にご相談ください。

神経・筋難病医療福祉従事者研修を開催して 副総看護師長 山口 よね子

平成23年6月15日、三重県鈴鹿保健福祉事務所と共催の神経・筋難病医療福祉従事者研修を開催しました。地域の保健所や訪問看護ステーション等の医療福祉関係者を対象に、地域患者の生活向上をめざし、医療と福祉の連携を図るための研修を行い、今回で7年目を迎えています。

介護保険法等の改正に伴い、介護職員等による痰の吸引実施等に向け検討がなされています。当院でも、昨年より地域のニーズに応えられるよう参加対象者の拡大を図り、今回、介護支援員を主に20名の参加がありました。

研修は、神経難病の疾患や看護などの講義、病棟で実際に行われている吸引技術等の見学です。参加者からは、「百聞は一見に如かずで、イメージがしやすく、目からウロコでした。」「今後の関わり方の参考になりました。」などの感想が聞かれました。

今後も、吸引の技術マスターに向けた企画や在宅療養される方々の支援など地域と連携し、専門病院である当院の役割を踏まえ研修を企画したいと考えています。よろしくお願ひします。



◀病棟での見学風景

▲講義風景

平成オタクコラム プロ野球編6 神経内科部長 久留 聡

1978年(昭和53)のセ・リーグ開幕戦、ヤクルトの新外人デーブ・ヒルトンは広島の高橋里志から二塁打を放った。このヒットが、外野席で観戦していたある青年にプロの作家になる決意を固めさせたという。村上春樹のファンの間では有名なエピソードである。それから19年後の1997年(平成9)4月3日のセ・リーグ開幕戦、カードはヤクルト対巨人。この年広島からヤクルトへと移籍した小早川毅彦は、巨人のエース斉藤雅樹から3打席連続ホームランの離れ業を演じてみせた。小早川といえば長く広島カープで‘ポスト山本浩二’としての活躍を期待されながら伸び悩んでいた未完の利器であった。野村監督指揮するスワローズで、見事その素質を開花させたのであり、野村再生工場の成功例と言えよう。当時僕は、鈴鹿病院に赴任したばかりで、この日は早速当直の勤務であった。いままで勤めていたのが急性期疾患を扱う病院であり、一転して慢性期の神経筋疾患の病院ということで、本当に自分にやっていけるのかどうか不安が大きかった。仕事の合間に当直室でテレビ観戦していた僕は、この3連発を見て、作家になろうとか、脳外科に転身しようとは思わなかったけれど、少しでも勇気づけられて、よしこの病院で頑張ってみようという気になったのでした。

トピックス②

第1回鈴鹿病院夏季筋セミナー開催

神経内科部長 久留 聡

さる8月31日(水)に、当院で第1回鈴鹿病院夏季筋セミナーを開催しました。愛知県、岐阜県下の病院から7名の若手神経内科医が参加され熱心に受講されました。内容としては、筋疾患総論、呼吸管理、心筋障害、筋病理、分子遺伝学に関する講義を専門の院内講師が行い、さらに病棟およびリハビリテーションを見学していただきました。神経内科のなかで筋疾患の分野はやや特殊な領域であり、急性期型の病院では診療する機会は限られているため、これまでも時々、若手の先生が当院へ筋疾患について研修に来られていました。それならば広く門戸を開こうということとなり、今回のセミナー開催に至った訳です。筋ジストロフィー患者の診療に携わる専門施設は少なく、東海四県では当院と長良医療センターのみです。そのため、いろいろな病院からたくさんの筋ジストロフィーや類縁疾患患者さんの紹介を受けます。逆に当院で診療中の患者さんが合併症治療や在宅復帰、外泊中の体調不良などのために最寄りの病院にお世話になることも少なくありません。こうした状況の中で、日頃は筋疾患を診ることが少ない神経内科の先生方にも筋疾患の基本知識やケアについて学んでいただくことで、よりスムーズな連携が可能になるものと考えています。幸い好評が得られたので来年度以降も継続して行う予定です。よろしくご支援お願い致します。



筋ジストロフィー病棟夏祭り

主任保育士 蒔田 千里

毎年恒例の筋ジストロフィー病棟夏祭りが7月27日水曜日に行われました。新病棟に引っ越して早くも2回目の夏祭りとなりました。今年は前年に比べて多くの患者さんが3階のプレイルームに上がることができました。緊急時の対応を含め、看護課にも多大なる協力を頂きました。今回3箇所の公演をお願いしたゲストの面々は、ジャズの本場ニューオリンズでも演奏活動をされているトランペッターの中村好江くわくホット5の皆さん、言霊を大切にギターの弾き歌いをされる富山喜子さん、そして前年度に引き続きパワフルな吹奏楽を披露してくれた三重県立白子高等学校吹奏楽部の皆さんでした。

患者の皆さんはもちろんのこと、付き添いの家族の方にも「よかったわー」と声をかけて頂き、それぞれの会場で演奏を楽しんで頂けた様子がよくわかりました。無事に夏祭りを終えることができました。

ご協力頂いた皆さんありがとうございました。



地域医療連携室だより

地域医療連携室との係わり

算定・病歴係長 村松 民幸

当院は長期入院される方が多いため、各種福祉制度や療養生活などに関する相談が多数を占めています。

地域医療連携室と医事係とは様々な関わりがありますが、特に各種受給者証に関しては、多様化、複雑化しているため、日々情報交換しながら業務を行っています。その他、入院、退院支援に関する業務などに関わっています。

また医療福祉相談や療養生活に関する事などに関しては、常に患者の立場に立って考える事を念頭において行っています。

「病院の玄関」として、病院の発展、地域医療の貢献を目指し、患者によりよいサービスを提供できるよう、スタッフ一同努めていきたいと思っています。



よろしく
お願いします!



◀地域医療連携室スタッフ

News

東日本大震災に伴う支援で表彰!

3月11日に発生した東日本大震災について、国立病院機構本部からの「被災病院からの患者受入の要請」に対して、急遽、空き病棟の医療ガス点検整備・ベッド搬入・人的対応試案などの受入体制を整備しました。

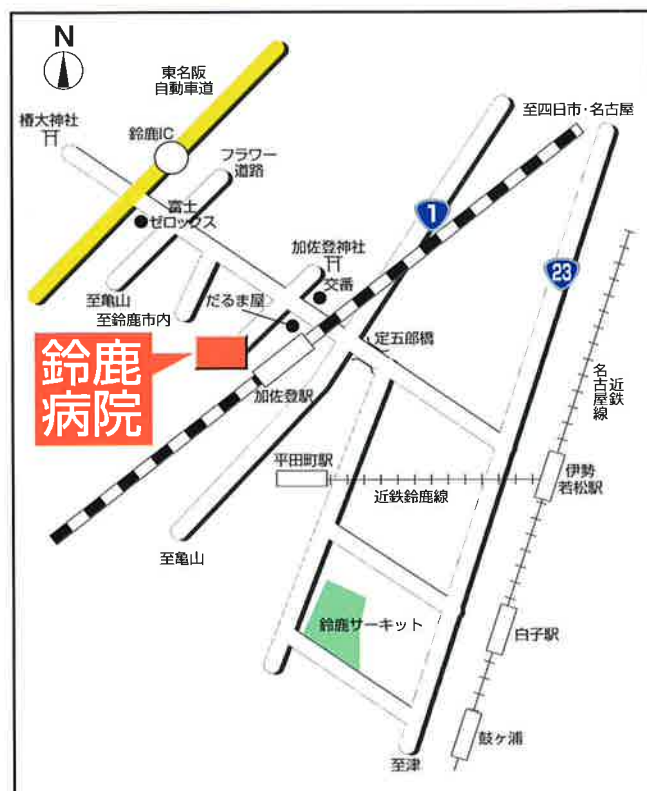
その功績に対して、独立行政法人 国立病院機構 東海北陸ブロック担当理事より、表彰を受けました。



外来診察担当表 (2011年9月1日 現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井	小 長 谷 松 本	小 長 谷	久 留
内 科 (循 環 器 科)	安間(第1・3・5) 棚橋(第2・4)	木 村	安 間 (循 環 器)	安 間 (循 環 器)	棚 橋 (循 環 器)
小 児 科	予 約	予 約	予 約	予 約	予 約
整 形 外 科		田 中(信) 午後(装具)			田 中(信)
リハビリテーション科					田 中(信)
歯 科	山 口		松 村	永 田	
皮 膚 科		高 間			

- ◆ 外来受付は8:30～11:00、診療開始は9:00～です。
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三交バス(荒神山口行き/椿大神社行き)
「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

◆ 発 行

平成23年9月
独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院
 〒513-8501
 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号
 Tel. 059-378-1321(代)
 Fax. 059-378-7083
<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

「昔と今」、「それまでとそれから」を区切るような日付があります。例えば、2001年9月11日。2011年3月11日も、間違いなく、そんな日でした。暑かった夏も終わり、過ごしやすい季節になりました。「鈴鹿の風」13号をお届けします。今後ともよろしくご愛読ください。

(安間文彦)

※写真は本人の許可の下、掲載しております。